

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200473		
法人名	介護サービス九州株式会社		
事業所名	つくしんぼのグループホーム唐津		
所在地	佐賀県唐津市和多田大土井2-35		
自己評価作成日	令和元年7月4日	評価結果市町村受理日	令和1年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が自然な形での自立支援「自己選択」「自己決定」、予防「生活療法」を行える様にしています。ご利用者様が我が家のように家族のように安心して暮らして頂けるように、また、ご家族様からはターミナルケアの要望が多く、安心して看取りが出来る事業所を目指したいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和元年7月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から少し入った、住宅街の中にある、平屋の民家改修型のホーム。ホーム内は広い座敷があり、昔ながらの雰囲気を感じられ落ち着ける空間である。建物自体は古いですが、清掃が行き届いており、居心地がよい。入居者は平均の介護度が高く、静かに過ごされているが、スタッフからは嚙下体操やレクリエーションで元気のよい声が聞かれていた。関係性も適度な距離感で、家族のように接しているのが印象的である。医療面のサポートも充実しており、協力医療機関の医師がこまめに様子伺いをしてくれており、夜間の対応も可能とのことで、安心して生活を送ることができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型のサービスの意義を各職員が理解し、母体の理念、事業所理念を朝礼で唱和し実践につなげています。	事業所理念を誰もが見ることができる食堂に掲示し、毎日唱和している。スタッフは自然な形の中で個人の尊重や、共に生きるという理念に基づいた支援ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の清掃作業や夏祭り等のイベントに利用者様と参加している。2ヶ月に一度の運営推進会議でも来訪して頂いている。時々近隣の子供達が遊びに来て、利用者様と触れ合ってくれている。	ホームの大家さんが隣家におられ、そのつながりを活かし、様々なボランティア慰問を受け入れたり、地域行事に参加したりしている。地区住民の差し入れがあったり、子供たちが遊びに来たりなど、地域とのつながりは良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は外部の認知症研修に参加し、認知症の理解、支援の方法を学んでいる。認知症サポーターの養成を受けた職員も1名います。運営推進会議では認知症の方への理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況をありのまま報告しています。特に事故報告やヒヤリハットの報告では厳しい意見を頂いたり、アドバイスを頂けますのでサービスの改善と向上に向けて取り入れています。	家族、市職員、地区代表、スタッフの参加のもと、2ヶ月1回の実施ができています。会議では様々な視点から意見をいただき、運営の向上に活かしている。議事録は玄関に設置し、誰もが見ることができ、情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話等で細かく協力体制が出来ていると思います。事業所での事故発生時や実情などを報告し、担当者の方から指示など頂いています。	市から月に1回様子を見に来ていただいている。会議で顔を合わせることもある他、ちょっとしたことでもメールや電話で報告、相談をしてアドバイスを受けており、良好な関係構築ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は解放しています。身体拘束など防止マニュアルを作成し、事業所内外でも研修に参加し理解を深め、身体拘束をしないケアを実践しています。	現在拘束は行っていない。外部研修や事業所内研修も定期的に行っており、拘束の理解や拘束しないケアの実施に取り組んでいる。また、言葉による行動制限や虐待などに関しても皆で考え、お互い注意しあうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外で虐待防止についての研修に参加し理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については研修を行い、利用者様が必要な時は活用出来るように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧に説明しています、不明な点はいつでも問い合わせ可能にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々のケアの中で要望などの情報収集を行い、家族に関しては面会時や訪問時に、利用者様がどんな生活をされていたのか、支援の要望等を聞き、要望書に記録し運営に反映しています。	普段の関わりの中か入居者の意向をくみ取っている。家族への報告もまめにし、関係性は良好で、面会時など意見を聞くことができています。意見はスタッフ全体で把握し、運営や支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、朝礼時、日々の業務時に職員の意見や提案を聞き、運営に活かせるよう検討している。	会議などでの意見交換のほか、管理者は日常業務の中や、電話相談など、言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、出た意見は必要に応じて代表に伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は1名が社員へ移行し、1名がパートの時給がアップしました。今後もやりがいのある職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員とも事業所内外で月1回以上は研修を行っている。日々のケア方法について不安な面、疑問な点についてはその都度事業所内で話し合い実践しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津グループホーム連絡会に入会し、研修や交流会、会議に参加している。他事業所のグループホームやデイサービスへ1日体験に参加し、他事業所の良いところを当事業所のサービスにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接お会いし、出来る範囲で利用者様、家族、ソーシャルワーカー、ケアマネ、施設などで対応されていた職員に情報を聞き、職員にも情報を伝え、安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の利用者様への思いや要望を取り入れ、安心して頂けるよう努めています。心配事や問い合わせ等はいつでも連絡可能な体制にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としている支援を見極めケアプランを作成しますが、都度必要とする支援を臨機応変に行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念を念頭に置き、我が家のように家族のように暮らしを共にする関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の絆を大切にし、家族と一緒に利用者様を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、キーパーソンの確認を頂いた友人、知人、いつでも自由に面会ができ、居室や外出等、好きな場所で面会して頂いています。誕生日は友人と外食されました。時々ご家族と外食される方もいます。	友人、知人などの面会時はゆっくり過ごせるような場所づくりなど配慮している。また、自宅や元の職場などにドライブしたりし、これまでの関係や思い出を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション、食事作り、談話等を日々行い、利用者様同士の関わり、支え合える事業所作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、他事業所へ行かれた方もいらっしゃると思いますが、時々連絡頂いたり、訪問して下さって、その後の状況を伺い知ることができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で利用者様の表情や会話の中、家族の話しから思いを感じとるようにしています。	日々の関わりの中で本人の言葉や反応などを見ながら、思いを把握するように努めている。その他、家族や友人などからも本人の思いにつながるような情報収集に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、利用者様、家族、ケアマネ、ソーシャルワーカーなどから情報を収集し、入居後は利用者様、家族との関わりの中で知ることもありケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族との関わりの中で思いや意見を聞き、必要な関係者と話し合い、全職員で情報や意見交換、モニタリングを行い介護計画を作成している。	入居者の思いを中心に家族、関係者が話し合い計画作成している。モニタリングは関係者会議のほか、職員会議でも話し合っている。記録も研修を受け、効果的な記録を行い、モニタリングに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら必要時はケアプランを変更しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族との関わりの中で、その時々生まれるニーズを柔軟に対応出来るよう勤務体制も工夫し取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向や必要性に応じて、地域資源を利用しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医と連携を図りながら適切な医療を受けています。タブレットを使用し連絡調整も行っています。	入居前からのかかりつけ医の受診も支援している。協力医とはこまめなやり取りをし、安心できる医療体制を整えている。家族への報告もこまめに行い、入居者の健康維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤準看護師1名、パートの準看護師1名と正看護師1名がいます。お互いに情報交換を行い、状態変化の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医との連携を図り、入院時には情報を提供し、入院中はソーシャルワーカー、看護師と密に連絡を取り合い退院調整を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、家族の思いを聞き、主治医、看護師、全職員、行政と連携を図りながら支援に取り組んでいます。	入居時にホームの方針を伝えている。重度化、終末期が訪れた際は、再度、家族に方針を確認し、同意を得ながら対応している。看取り時には協力医を中心に、スタッフ全員が協力し支援する体制があり、スタッフも安心して対応できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状況に合わせて事故の予測を立て職員会議等で話し合いをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルをもとに環境整備等にも気を付けています。年に2回の消防、防災訓練と毎月、緊急時の対応、避難時の対応を職員同士で確認しています。	自衛避難訓練を年2回実施している。地域特性に応じ、原発事故時の避難手順等も整備されている。職員の防災の意識も高く、地域との関係も良く、もしもの時には協力を得られるような体制ができている。地域住民の訓練参加や具体的な役割確認はこれからである。	地域住民の協力体制をもう一步進め、日程の工夫などにより、訓練に参加してもらい住民の方の役割を確認するなど、さらなる協力体制づくりに向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人にあった分かりやすい言葉遣いや言葉かけを心がけて対応しています。	一人ひとりの尊厳を大切にし、声掛けや言葉遣いに気を付けている。研修などを通じた勉強の機会づくりもしている。また、資料の保管を適切に行い、情報開示も家族の同意を得て行うなど、個人情報の取扱いについても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を取り入れています。迷われる時は自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の重度化にとまどない、日々、一人一人の状況変化に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、好まれる服を利用者様や職員が選んで身だしなみを行っています。日々臥床されている方は、家族様の了解を頂き楽な服装を選んでいきます。外出時は化粧をされる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いやアレルギーを把握し、代替え等を行っています。それぞれの方の嚥下、咀嚼にあった形態に変更しています。職員と一緒に楽しみながら準備等を行っています。	平日のメニューは決まっているが、土日は入居者とメニューを決め、好みを反映させている。食事形態も個別に合わせた形態にして食べやすくしている。天気の良い日には縁側で食べたり、家族と一緒に食べる機会もあり、食事が楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の活動量、病状に合わせて、主治医、看護師と相談しながら栄養、水分摂取量を決めています。摂取量は記録し脱水予防に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後の口腔ケアを行っています。歯科医、歯科衛生士の助言を受けながら利用者様にあった器具等を利用し感染予防にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄状況を把握、記録し支援しています。	重度の方でも昼間はできるだけトイレで排泄をしてもらっている。記録などを参考にタイミングを図っている。夜間はポータブルトイレの活用をし、パットやおむつを使わない排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘等の原因を理解し、適度な運動、飲食物の工夫をしているが、上手いかな利用者は主治医へ相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を行っているが、利用者様の希望、体調、病状、状況に合わせて支援している。その日入浴されない方は陰部洗浄、清拭、着替え等を行っています。	浴室は毎日使えるようになっており、希望や状況に応じて臨機応変に入浴の支援をしている。また、ゆっくりとスタッフと話す時間としても活用されており、楽しく入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況で就寝時間が変わるので一人一人に合わせた就寝時のケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が常にお薬ノートが確認出来るようにしています。職員全員が一人一人の服薬を把握し、チェック表に記録し、職員同士声掛けしながら服薬ミスなどないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様がそれぞれに楽しみながら出来ること、やりたいことを考え、実践して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の重度化に伴い、遠出の外出は減りましたが、日光浴などのために近隣への外出は頻繁に行っています。歩行出来る方は自由に入出入りされ家族とも外出されています。医療機関受診介助時を利用しドライブや買い物、散髪等も行っています。	天候、気候が良い日にはできるだけ戸外に出るようにしている。近くの川の堤防沿いを散歩したり、重度の方は庭先で外の空気に触れたりしている。ちょっとした買い物や、家族の協力のもと結婚式などに出かけられることもあり、その時はホームとして必要な配慮を行い、外出しやすいようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者様自身がお金を持つことはありませんが、買い物など利用者様の希望があれば家族へ連絡し了解を得れば支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい等の希望があればいつでも電話をかけ話ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時換気をし、温度や湿度の調節をしています。毎日、次亜塩素酸消毒液で床掃除、拭き掃除をしています。安心して居心地の良い生活ができるように家具の配置や季節の花など置き工夫しています。	掃除が行き届いており、清潔な共用空間には入居者と作った季節の飾りなどがあり、快適に楽しく過ごすことができる。気になるにいい、音などもなく何より古民家の雰囲気、入居者が落ち着く一番の要因になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は居間や食堂で過ごすことが多いが、居室で過ごされる方は常に居室へ行き、状態を把握しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や馴染みのタンス、写真等を持参され居心地良いように過ごされています。	入居者の方の馴染みのある家具などを持ち込んでもらい、心地よく過ごせる空間づくりがなされている。家具の配置も安全に、本人が使いやすいような工夫がされており、快適な空間となっている。ヘルメットも準備され災害時なども安心である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心がけ、事故予防に努めています。利用者様が生活の中で必要なものは位置を変えずに「できること」「わかること」を妨げないようにしています。		